



宝木地区公民館だより

7月31日(日)「宝木っ子まつり」が盛大に開催されました。

たくさんの参加ありがとうございました。(参加者総勢171名)

泊まり隊

みんなで育てよう

地区公民館運営委員長

米田 克彦

『泊まり隊』のボランティア活動に参加し、見聞きしたことを皆様に伝え、協力をお願いします。

昨年までの『通学合宿』が諸事情により、夏休み中の二泊三日『泊まり隊』に変わりました。計画のための話し合い、諸準備、各関係者への依頼、そして当日の運営・後始末と大忙し。参加された関係者の皆様は非常に満足し、絆が深まりました。

さて、主役の子供たちは、話が聞けない、聞いても行動に移せない、行動が続かない等の様子が見られませんでした。

しかし、最終日には、段々と自主的に行動できるようになり、成長が感じられました。公民館の職員の方々は二泊三日の中で、目が回るような働きぶりでした。



そこで、皆様にお願いたいのですが、我が子のためだけではなく、宝木校区の子供たちのために積極的に参加協力していただきたいと思えます。(時間の許す限りの長短)。方法は指導(学習、工作、体育等)・観察・励まし・慰め等々いろいろあるので、無理をせず可能なやり方でご自由に参加してほしいです。

また、学社連携は大切・必要だといわれています。平日に行われた行事ですが、様子を見るだけでもお願いしたいし、スタッフとして参加協力していただければ大助かりであり、とても嬉しいです。

いろいろと感想・希望を書きましたが、地域の子供たちをみんな育てましょう。

健康講演会に参加して

吉田 芳栄

八月二十六日、宝木ふれまち・地区公民館健康部共催で開催された地元開業医の太田原美子先生による「地域医療の事情について」の講演を聞きま

した。先生は、昭和四十一年宝木に赴任され、以来四十五年間、地域の開業医として地域住民、また、学校医として子ども達が健康であるよう取り組んでこられました。

当時の地域の実態や、地域医療にどのような取り組みがなされてきたか、そして医学の発達した現在、生活習慣病といわれる脳卒中、癌、糖尿病の予防、検診、ワクチン接種の必要性をユーモア交えながらお話になられ、和やかに拝聴することができました。

そのなかで近年、ペットブームで、鳥・犬・猫等が飼われているが、その排泄物の処理を考慮しないと、病原菌に感染する

場合もあるとのことがありま

した。細かなことですが、住民一人一人がその地域の環境を清潔にするという意識をもつことが大切だと感じさせられました。

また、先生は永年、学校医としてご尽力され、学校保健功

労により、この春の叙勲で瑞宝双光章を受賞されました。講演をお聞きしたくて参集した地元のたくさんの皆様とお慶び

申し上げることができました。これから超高齢化社会を迎えようとしております。

先生には

お元気で、いつまでも、身近な地元のかかりつけ医として今後ともよろしくお願

い申し上げます。



心わくわく！

砂像づくり&地曳網

ひかり保育園

園長 重山 宣子

七月三十一日、宝木ふれまちさんとのふれあい健康まつり・地曳網を行いました。毎年、世代間交流として宝木ふれまちさんとの地曳網を楽しみにしています。今年度は、ひかり保育園五才児十四名が、更に地域とのつながりを深めるべく、宝木っ子まつり、砂像づくり&地曳網と一緒に参加しながら、地域の皆様とも賑やかに元氣いっぱい過ごし、思いっきり夏を楽しむことができました。親子チームに分かれての砂像づくりは、「キティちゃん・ドラえもん・ぶたさん」といろいろなモチーフでスタート！初めて砂像づくりにチャレンジしたという親子が大半でしたが、段々と砂像づくりにも熱が入り、どのチームもかわいらしくて見事な砂像ができあがりま

した。砂像づくりの後は、親子一緒に地域の皆さんと地曳網に参加しました。大漁とはいかなかったものの、地曳網ができる機会をいただいたことへの感謝の気持ちや子ども達の弾けるような笑顔と、歓声をあげながら砂浜を駆け回る姿を見ると、「また、一緒に参加できたらうれしいな・・・」という思いでいっぱいになりました。後日、保護者の皆様から喜びの感想をたくさんいただきましたので、その中の一つを紹介したいと思います。

「砂像づくりは、子どもも私も初めての事だったので楽しく参加する事ができました。夜寝る前に「今日は楽しかったなあ」とほつりと独り言を言っていたので、よほど嬉しかったんでしょうね・・・」

宝木ふれまち・宝木地区の皆様、楽しいひと時をありがとうございました。



梅干し作り

米田 克彦

7月2日(土)午前9時から約2時間かけて、初めて『梅干し』を作った。指導の先生は川瀬さんだった。

「先生と呼ばないで、川瀬さんと呼んで」ということだったので、そう呼ばしてもらった。川瀬さんは、三週間前の『らっきょう漬け』と同じ人であった。梅は前日、有志の方々が鳥取市神戸地区から収穫して、大、中、小と分別し、1人分3kg余りに計ってあった。その梅のへたを竹串を使って一つ一つ取った。この作業はらっきょうの両端を切り取るよりは易しかった。

さて、作り方は次の通りであった。

1. へたを取った梅を良く洗い、水分を布巾かキッチンペーパーで取る。
2. 食塩を計る(梅の重さの13%~18%)好みで塩の分量を決める。
3. その食塩の7割ぐらいを使って、梅をしっかり揉む。
4. 壺かプラスチックの容器と梅の重さの2倍くらいの重石を用意する。
5. 焼酎で容器を消毒し、塩をまぶした梅を容器に入れる。また、焼酎を梅にかけると塩が梅にまぶれ易い。重石をして水分が上がるのを待つ。
6. 赤紫蘇をしっかりと水洗いし、残しておいた3割の塩を使って、揉む。水分やあくを絞る。梅の上に散りばめ、重石をする。
7. 土用まで冷暗所に置いておき、三日三晩干したり露にあてたりし、容器にもどす。これで『梅ぼし』から『梅干し』になるのがわかった。

来年は皆さんも一緒に参加しましょう。



滝巡りに参加して

龜谷 寛己

七月二十五日、早朝の雨も上がり少し涼しく感じられる中、三十名で出発しました。まず松崎の今滝に到着、鬱蒼とした木立ちの中を小鳥の鳴き声を聞きながら歩き、ちょっとした森林浴でした。

四十四mの高さから水飛沫をあげて落下する滝は壮観そのもので、我を忘れて見入りました。「水は生活で欠かせない物であり、また人の心も和ませ

るが、時には人命、財産を脅かす恐ろしい水になる事もある」ということをふと思いました。

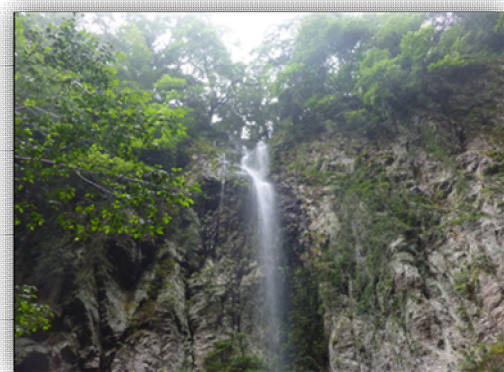
二つ目の不動滝を見学した後、伯耆一宮(しとり神社)、「安産の神」として知られるこの地方随一の歴史ある神社にお参りしました。

水明荘で湖畔の景色を眺めながら和気あいあいの昼食をし、食後の散策で英気を養いました。午後は波波伎神社の境内で、県史跡の福庭の古墳等を見て、次に古くから水運による物

資の集散地として栄え、藩の米倉として重要な役割を果たした橋津の藩倉を見学しました。地元のボランティアの方の説明を皆さん熱心に聞いておられました。

最後に馬ノ山の古墳群を見学し、歴史を学んだ一日でしたが、私は滝以外行ったことのない所でしたので、鳥取県にいろいろ在る名所旧跡を改めて知った一日でした。

今回の研修でお世話になりました講師の河根さん、橋津の



今 滝
(東伯郡湯梨浜町)

方々に心よりお礼申し上げます。

氷ノ山登山に参加して

吉村 絹子

いよいよ今日は、楽しみに待っていた登山。嬉しさと心配が交互し何とも言えない気持ちでした。

朝、息子に「おばあさん、ちょっとしたあ年を考えて登らんといいけん」と言われたけど、言われたら言われる程なにくそと思ひ、あきらめませんでした。参加者の中で一番私が高齢者でした。何しろ今年、後期高齢者との仲間入りですから。年のことは気にせずに、誘われた嬉しさも手伝って、まるで子供が遠足にでも行くような気分でした。

集合場所に来て見ると案の定、若い人と子供達で、気がひきました。心の中で、ああ、来な良かったと思ひました。でも、来た以上は、頑張るしかない心を決めました。

いよいよ登山道にさしかかりました。とにかく、皆に迷惑をかけたらいけんという思ひでいっぱいでした。おそろしい

所を鎖につかまりながら一歩一歩足に気を配り登りました。登りながら心の中で「神様、仏様、こんな丈夫な足を授けて下さりありがとうございますとお礼を言いながら、どうぞ、途中転んだり、途中やめにならない様にと祈りながら登りました。頂上に着いた時には、下界の素晴らしさよりも、ようこ迄登って来たただわいなあと思ひ、クリアー出来た喜びに包まれました。

「バンザイ、よう頑張ったな」と自分をほめてやりました。とても爽快な気分でした。頂上の空気を胸いっぱい吸って下山です。下りがけも、すべて転ぶ事なく、無事下山でき、ルンルン気分でした。下りてからも人は、すねこぼさんが笑って足が痛い痛いと言っていました。だが、私はまだまだ歩く余力がありました。

私は、この登山に誘っていたとき、山のパワーと若い人達のパワーがいただけたことに感謝しています。



また、この年齢で登山が出来た健康な体を授かった事に感謝しています。来年も登山があったら参加出来る様に、今から体力作りに励みたいです。

ふれあい登山
ふじわらあいね



おとしよりのことをしんぱいしていますね

なまえ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
なまえ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
なまえ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
なまえ	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア

編集後記

「打てば響く鐘になれ」私が子供の頃、幾度となく耳にした言葉です。学校、家庭、地域で、当たり前のように使われていたように思います。少子化になり大切に育てられる反面、指示待ちになっていないでしょうか。東日本震災を機に人々の繋がりが見直されている今、地域の絆が深かった頃の子育てを振り返ってみてみたいです。